

「今、私達にできる事は何か」

読谷小学校 六年一組 比嘉 咲月

私は、戦争の事を調べたり、考えていくうえで、改めて戦争はともおそろしい物という事を知り、二度とくりかえしてはいけな
と思いましたが。

戦争では、20万人をこえる人々が犠牲にな
りました。また、日本軍から米軍につかま
たり殺されると聞かされ、そのまよふで家
族や親せきで殺し合う集団自決が発生し、犠

牲になった3人のうち、15さい以下の子供が
45人もふくまれていました。

私は、しりょうのほかにも戦争体験者の方
の話聞いてみました。体験者の方は、2さ
いになったばかりの妹とお母さんと3人では
げていて、ごうに入ろうとしたら、泣く子は
いない。と断わられてしまっただそうです。
なので一人でもたすけようとお母さんは
2さいになっただばかりの子供をばくだんがあ
たりそうにならけた岩場にすてたそうです。

私はその母親はとてもつらい思いをしたたろうなと思います。

また、私は戦争のころは、お金も家もない中で、食料はどうしていたかき問に思っただので、調べてみました。当時の人々は、みかんの皮やとうもろこしの芯、キャベツの芯や、かぼちゃ、すいかの種などを食べ、とてもおとろいた食品は、のこぎりの木の心なごさなご、ねずみなどです。のこぎりなどのごさは、粉末にして、小麦粉・米粉などに20%混ぜて

食べ、さなぎはそのまま佃煮にして粉類とませ団子に。ねずみは但しほねが、人間に害があるののでとり除き、よく消毒してから食べて、味は、鳥肉のような味がしたそうです。以上のことを調べてみて、戦争によって大変な苦労があったことがよく分かりました。ねずみまで食料になつていたということは、とてもおどろきました。

これらのことをひまえて、私は、これらのくるしい出来事を、体験者から学びつたえな

たいなと思いましたが、でも私はたれもが思いやりをもち、それがつみなさなればもう二度とあのような争いはおこらないと思えます。なので私はこれから思いやりをもち、平和な生活をあたりまえとは思わずに、平和のありかたさを感じ一日一日を大切にできるような人になりたいです。

この学習を通して食べ物大切にしなければならぬ。と改めて思うとともに、戦争のひさんさを心にきざむことができました。戦

後七十五年目、私たちが生まれる何十年も昔のことですが、今も地球のあちこちで地域紛争や戦争による飢えなどで苦しんでいる人々がたくさんいます。「今、私たてにできることは何なのか」みなさんにも考えてみてほしいと思います。

これからもうぜつたいに戦争などおこしたくないと心から思いました。